

グリーン四国

No.1259
2025年
2月号

四国森林・林業研究発表会を開催

【詳細は2頁】



旧日本軍が船舶を監視していた太平監視台(13頁記事内)

目次

・ 四国森林・林業研究発表会を開催	2
・ 令和6年度 第2回国有林モニター現地説明会を開催	4
・ 三好林業アカデミーの生徒に森林現場実習を行いました	6
・ 魚梁瀬小学校の千本山登山	8
・ 高知県西部の小学校3校で森林環境教育を実施	9
・ 鳥獣害被害対策をより効率的におこなうためには?	11
・ 香川森林管理事務所の重点施策	12
・ 管内の見所紹介	13



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

四国森林・林業研究発表会を開催

◀局技術普及課▶

1月16日、「令和6年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

森林管理局の職員、教育機関（大学の学生及び県・市町村・試験研究機関の職員等が、日頃の業務を通じて得られた森林の効率的な整備方法や森林環境教育の推進、森林生態系の保全管理の取組等について発表することにより、これらの成果の普及を図るとともに、今後の業務研究を一層推進し、併せて研究課題への取組を通じて、人材育成に資することを目的としており、今年で72回目を迎えました。

四国森林管理局からは、ICT技術による業務省力化に向けた実証や、獣害に関する取組についてなど9課題の発表を、大学からは高知大学と愛媛大学より学生による研究の発表を行いました。また研究機関等から特別発表として、森林総合研究所四国支所より、遺跡の花粉分析データに基づく縄文時代以降の四国における森林の変遷

について、高知県立森林技術センターからは、コウヨウザンとスギの初期成長比較について発表いただきました。

審査委員の方々から質問や意見もたくさんいただき、大変有意義な発表会になりました。

閉会式では、審査委員長の岡輝樹森林総合研究所四国支所長から、「国有林職員の皆様は大学生のようにはないので、審査委員会委員全員より単位を贈呈したく思います。」と労いの言葉をいただきました。また、「『研究』を進めるうえではこれまでで得られている正しい情報を見極める必要があります。昨今のインターネット事情の急速な進展により、どんなことでも簡単に調べることができるようにはありませんでしたが、インターネットには、正しい情報だけでなく、間違った情報、やや科学的根拠に欠けるものもたくさんあります。得た情報

を取捨選択し正しい情報を見つけないこと、そして目の前の情報を正しく読み取り活用することが研究を進めていくうえで不可欠です。

少ない事例を一般化する際に使われるのが統計学であり、一部だけ抜き取って全体を類推する『味見』みたいなものです。統計学は難しい、という方も多いでしょう。難解な内容はそれを得意とする人に聞くのが一番です。

その時に注意しておくべきことは、データがすべて出揃ってからの統計手法を使えばよいか尋ねるのではなく、その仮説を検証するために研究計画を立てた時点で決まっているということ。なぜなら統計手法にはそれが成り立つ条件や仮定があり、研究計画の中にそれを組み込んでおかないとその手法を導入してはいけないからです。ぜひ計画の段階で詳しい人に相談してみましよう。きつと研究計画が大きく進展するに違い

ありません。」と、これから研究を進めていく上で大事な情報リテラシーと統計学に関するお話もいただきました。

表彰結果については、次のとおりです。

○四国森林管理局局長賞

最優秀賞

（森林ふれあい・地域連携部門）

「高知の自然！大発見すごろく」の開発による森林環境教育の普及啓発について

嶺北森林管理署

岡本 昂大

田村 翔太

池森 加奈恵



(四国森林管理局ホームページ内)
「高知の自然！大発見すころく」
へのリンク



○日本森林技術協会理事長賞
(森林技術部門)

職員実行が可能なICT技術により
森林資源情報を整備しmapry
LA03、AssistZで低コス
ト、省力を検証し

資源活用課 竹内 昭人
技術普及課 有澤 菜穂
企画調整課 中村 光太郎



○日本森林林業振興会会長賞
(森林保全部門)

シカ捕獲の効率化について
〜熟練職員の技を受け継ぐ〜
安芸森林管理署

小林 風賀
村上 烈士



(四国森林管理局ホームページ内)
「シカ捕獲マニュアル」へのリンク



○四国森林管理局長賞
優秀賞

(森林技術部門)
ウバメガシ萌芽更新試験地のその
後の検証(第3弾)〜施業方法・
環境要因が萌芽の生存や初期成長
に与える影響の検討〜
四万十森林管理署

伊勢脇 鳳雅
今若 舞
藤村 良汰



○四国森林管理局長賞
優秀賞

(森林技術部門)
UAVを用いたシカ防護柵巡視の
取組
香川森林管理事務所

岡 慎之助
石本 雄大
伊佐 林里子



(全課題の発表要旨等は四国森林管
理局ホームページに掲載
しています。)



令和6年度 第2回国有林モニター 現地説明会を開催

〈局企画調整課〉

林野庁では、幅広い国民の皆様
に国有林についての理解を深めて
いただくとともに、意見交換など
対話型の取組を通じて御意見や御
要望をいただき、それらを国有林
の管理経営に役立てることに
開かれた「国民の森林」にふさわ
しい管理経営を行っていくことを
目的として、「国有林モニター制度」
を設けています。

四国森林管理局では現在、令和
6～7年度の2年間を任期とする
国有林モニターを34名の方に依頼
しています。

12月7日、高知県の町におい
て、第2回国有林モニター現地説
明会を開催し、「造林事業」、「獣害
対策事業」及び「ICT活用」に
ついて、四国各地から御参加いた
だいた18名の国有林モニターの皆
様にご説明するとともに現地をこ
覧いただきました。

造林事業・獣害対策の説明

午前中は「いの町清水公民館」
において、再造林の重要性や獣害
対策についての座学を行いました。

企画調整課より、国内の人工林
資源は利用期を迎えており、資源
の循環利用と森林の持つ多面的機
能の発揮に向けて再造林を推進し
ていく必要があること、育林事業
者の不足や造林にかかるコスト負
担、獣害の増加などにより再造林
が進んでおらず、再造林の低コス
ト化・省力化及び獣害対策の推進
が必要であること、四国森林管理
局では伐採と造林の一貫作業シス
テムの導入、大苗の導入、冬下刈
りや下刈り回数の削減といった取
組を行っていること、またシカ被
害を中心とした獣害対策の取組に
ついて説明を行い、質疑応答を行
いました。

参加者からは、「日本の木が現在
使い頃であることについて、もつ
と広く国民の常識になるくらい、
あちこちで情報発信がされると、
使う人が増えたり新しいアイデア
が集まったりすると思う」、「林業
はこれから他産業とどんどん連携
すべきだと思う、今回は狩猟につ

いてのお話もあったので、狩猟と
うまく連携できたらいいと思った」
等のご意見やご感想をいただきま
した。



いの町清水公民館で座学

「集約化試験団地」の見学

午後は「葛籠谷黒滝山231林

班」に設定された「集約化試験団地」
に移動して、「シカ用小型囲いわな
の開発」、「早生樹の造林技術の確
立」、「地拵省略による苗木の成長
比較」、「大苗と施肥を使用した低
コスト造林」等の取組の説明を行
いました。当地は四国の中心的位
置にあり、造林に関する各種技術
課題について、1箇所のフィール

ドに集約し検証することで、効率
的な実証作業及び現地検討会開催
等による情報共有が可能な「見え
る化した試験地」として令和2年
度に設定されました。

冒頭、森林技術・支援センター
より、シカ用小型囲いわな「こじや
んと1号」及び各種くりわなの
説明を行いました。囲いわなの組
立てやヘイキューブと呼ばれる誘
因餌の設置の実演に参加者も興味
津々な様子で、「誘引捕獲のアイデ
アは素人でも捕獲確率が高くなる
もので、素晴らしいと思った」と
いった感想がありました。

続いて、集約化試験団地の見学
を行いました。まず、当試験団地
の概要について説明した後、「5種
類の単木保護資材の比較試験」に
ついて、効果的な選定・設置に向
けた設置功程や成長量等の検証に
ついて説明しました。続いて、「早
生樹の造林技術の確立」について、
コウヨウザン及びチャンチンモド
キの造林技術確立試験地の見学を
行い、参加者からは「コウヨウザ
ンとチャンチンモドキは同じ仲間
なのか※といった質問がしまし
た。



「こじゃんと1号」の見学



単木保護資材の見学

その後、「地拵省略における苗木の成長量と下刈功程の比較」及び「大苗と施肥を使用した低コスト造林」の試験区を見学した後、「ドローンにて試験団地全体を空撮し、鮮明な映像に参加者からは感心の声が上がっていました。」

※コウヨウザンはヒノキ科、チャンチンモドキはウルシ科の植物であり、異なるグループに属しています。

まとめ
現地説明会全体を通して、「普段は立ち入ることができない国有林へ入り、現在行われている試験や



早生樹（コウヨウザン）の見学



「地拵省略による苗木の成長比較試験地」の見学



ドローンで記念撮影

開発した実物を実際に見ることができ、有意義だった」、「国民皆の財産である国有林について、苦勞と工夫を重ねながら、あらゆる方面で活用しようと頑張っておられる事を見て感じる事が十分に出来た」、「集約化試験団地の存在は知らなかったが、現地見学をしながらお話を伺えて良かったです」といった感想をいただきました。

引き続き、モニターの皆様からいただいた御意見等を参考に、国有林の適切な管理経営を行い、多くの国民の皆様にも国有林野事業への理解を深めていただけるよう努めてまいります。

✳ 集約化試験団地における取組については、森林・技術支援センターHPおよびグリーン四国 2023年6月号に詳細を掲載していますので、よろしければ御覧下さい

▶ 森林・技術支援センターHP

https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/gijutu_c/index.html

▶ グリーン四国 2023年6月号「集約化試験団地の試験結果中間とりまとめ報告」

https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/koho/koho_si/green_shikoku/attach/pdf/index-21.pdf

※クリックすると自動的にダウンロードが開始されます

三好林業アカデミーの 生徒に森林現場実習を 行いました

〈徳島森林管理署〉

徳島県では平成28年に「とくしま林業アカデミー」（徳島市）が林業の人材育成のための取組を開始し、現在まで約120人の卒業生が県内の森林組合や林業関係会社に就業しています。

その姉妹校として、三好市は、市内の林業従事者を育成する「三好林業アカデミー」を令和6年4月3日に開校しました。

第1期生は、同市や隣接する東みよし町出身の18歳から23歳までの5名で、林業に関わる知識の取得や現場実習を行いながら林業に必要な11種類の資格を取得する予定となっています。

ちなみに、徳島森林管理署では「とくしま林業アカデミー」の開校当時から、出前授業を毎年実施しており、姉妹校でも行うことになりました。

今年度第一回目として、10月8日に森林調査の基礎となる測量実

習を行いました。

近年の林業においての測量は、様々な方法や機種がありますが、簡易に実施可能なコンパス測量はすでに学習していることから、アカデミー側の要望も踏まえ、先端技術のGNSS端末を利用した測量方法について、国有林野事業で行っている「モバイルマップパー」端末及び新しく導入された「Phone GO」端末でレーザー照射しながら測量を行う「Mapry 林業」アプリを使い、既に学習済みのコンパス測量との比較を体験してもらう授業としました。



モバイルマップパーで測量中

当署の森林技術指導官より、測量に関する留意点や注意事項、端末の使用方の説明後、屋外に移動し二種類の端末による測量を体験してもらいました。

生徒は慣れない端末に苦戦していましたが、次第に操作にも慣れ、結果や誤差がコンパスと比べ瞬時に表示されるなど進化した機器の利便性に驚いていました。



Mapry 林業での屋外測量実習

第二回目は、1月8日に無人航空機ドローンに関する講義と飛行体験等を実施しました。

森林技術指導官より、関連する航空法に基づく飛行ルールやドローンの仕組みなどを踏まえた操

作方法の説明を行った後、実際に林業現場で活用されているオルソ画像の作成にあたり専用アプリを用い、飛行ルート等の区域設定を各自アカデミー生が行いました。



操作方法を受講する生徒

あわせて、ドローン飛行時に通信環境が悪い箇所や、GPSからの位置情報取得が困難な場合の対処方法、また、飛行中の機体を紛失した場合、衝撃などにより発火し山火事の危険性があることなどの注意点について説明を行いました。

講義終了後、近くの多目的広場に移動し、実際にドローン操作を体験してもらいました。

アカデミー生は、慣れない手つきでドローン操縦を行っていましたが、すぐにコツを掴みドローンから静止画や動画撮影を行うなど思いどおりの操縦ができるようになりました。

なお、アカデミー生の中には、池田高校三好校の卒業生で、過去に当署が行ったドローン出前授業を受けた者も含まれていることが分かり、その若者が林業の世界を目指していることは、署の担当者として喜ばしく感じたところです。

その後、各自が設定した自動飛



多目的広場で飛行実習

今年度の開校された「三好林業アカデミー」は、様々な講義や作業現場での実習を通じて専門的な



飛行実習

行アプリによりデータを収集する飛行や、当署の職員が鹿の防護柵の点検などで利用する飛行するルートを記録し、再度同じルートを飛行させる「ウェイポイント」によるデモンストレーションを行い、アカデミー生からは、「思ったより簡単に操作ができ、身近にICT技術を体感できた。今後、三好地区の林業事業を盛り上げていきたい」などの声が聞かれました。

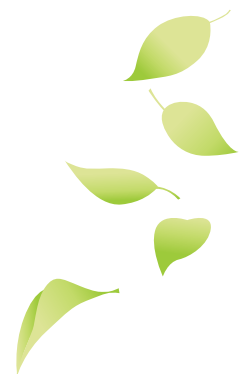
入林される皆様への注意事項

- 国有林に入林する際には、以下の事項について注意してください。
- ① 草木やキノコなどの採取、樹木の伐採や損傷をしないでください。
 - ② 自然保護などのために立入が制限されている箇所へは入らないでください。
 - ③ ゴミは持ち帰りましょう。
 - ④ 枯木や枯れ枝は危険ですので、近寄らないでください。
 - ⑤ タバコなど火の取扱いには十分注意してください。
 - ⑥ 林道は未舗装箇所が多数あります。通行の際はご注意ください

登山は自己責任です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で入山してください。また、ご家族へ行き先を告げるとともに、登山目的地を管轄する警察署等へ登山計画書を提出してください。



知識と技術を身につけ、地域の林業を守るリーダーの育成を目指しています。当署としても、関係機関・団体等が連携して行う人材育成の取組について、今後とも積極的に支援して参ります。



魚梁瀬小学校の 千本山登山

〈安芸森林管理署〉



登山開始

馬路村立魚梁瀬小学校では、学校行事として「千本山登山を通し、地域の誇りである魚梁瀬杉について知るとともに、郷土の自然を体験する」、「最後までチャレンジする心を育む」ことを目的に、千本山登山を毎年行っています。

今年は11月22日に、児童3名、教職員5名が参加し、当署からは3名がサポートしました。



親子杉で休憩中

開会式では、先生から登山時の注意点と体調等の確認を行い、当署職員からはスケジュールと児童たちの登山装備を確認し、千本山登山口を出発しました。

千年橋と呼ばれる吊り橋を渡ると、巨木百選に選ばれた「橋の大杉」が現れます。その後は「親子杉」、「根上がり杉」、「鉢巻き落とし」などの名所を巡り、目的地である展望台を目指しました。道中、先生方が楽しそうに登山する子供たちの姿を写真に納めていました。登山道は落葉で滑りやすく歩くのが大変なところもあるため、みんな

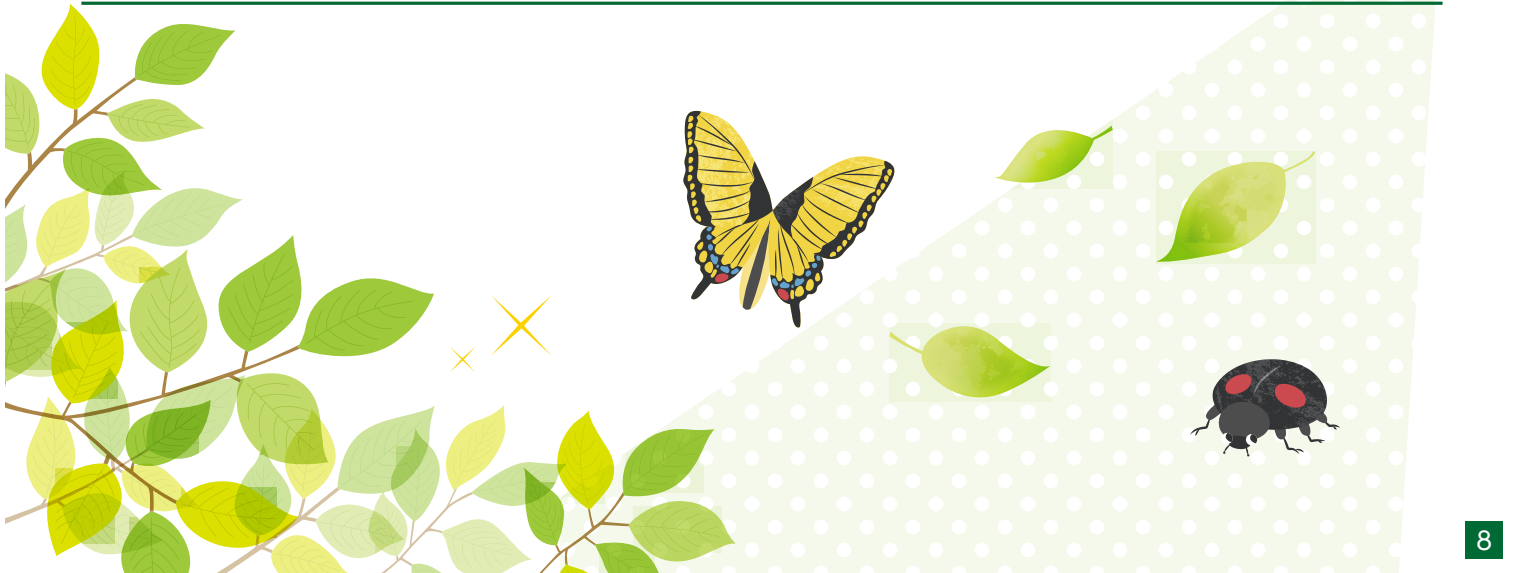


鉢巻落とし

隊列を組んで進みました。展望台に到着後は、お弁当を食べ、先生が用意した「宝探しゲーム」などで楽しんでいました。

児童も先生も疲れながらも無事に下山し、閉会式では児童から「今日は大きな杉を見たり触れたり出来て楽しかったです。」と感想がありました。

地域の児童が自然を学び伝えるこの行事が、末永く受け継がれるよう、今後も協力していきたいと考えています。



高知県西部の小学校3校で 森林環境教育を実施

〔四万十川森林ふれあい推進センター〕

○概要

当センターでは、12月も、平田小学校、入野小学校、中村小学校を対象に森林環境教育を実施しました。(別表参照)。

○森林教室

入野小学校の5年生を対象とした森林教室では、今回も地域での地球温暖化防止の取組を推進している高知県地球温暖化防止活動推進グループ「うみのこども」の村上弓恵さんに担当していただき、「森のやさしさについて」と題して、児童たちに話しかけるかたちで、空気をきれいにする、水をつくる、生き物のすみか、災害を防ぐなど森林のはたらきを説明し、森と人間とあらゆる生き物など、お互いが助け合えるたぐさんのやさしさが一つになって大きな森という自然ができていることをわかりやすく説明してもらいました。

入野小学校の4年生、中村小学校の2年生、平田小学校の1・2

年生を対象とした森林教室では、「山(森林)からの贈り物」という紙芝居教材を座学で使用し森林の役割について児童と対話形式で学習を進めました。この教材は、これまで実施した際の教職員との打合せや実施後の教職員アンケート結果、児童からいただいた感想文において、「分かりやすくとても良い」と大変評判の良かったものです。



紙芝居を使った学習の様子 (中村小)

○木工教室

平田小学校の5・6年生の木工教室では、「小学校の教科にある卓上糸鋸盤の使い方などを児童に指導してもらいたい。」との要請を受け、卓上糸鋸盤を使った木工工作「ハッピーブックスタンド作り」を

行いました。

また、3・4年生の木工教室では、「のこぎりを使った木工クラフト作りがしたい。また、のこぎりの使い方やクラフトナイフの使い方を指導して欲しい。」との要望に沿って、「楽しく作ろうね木工クラフト作り」と題し、各自「四国森林管理局の楽しく作ろうね」の作り方冊子を参考にしつつ実施しました。小枝をのこぎりで切り、クラフトナイフとカナヅチの使い方の実技指導を行った後、ヤマザクラ等の自然木の小枝等を使用して、創造力を働かせてネコやクマの置物などを自由に製作しました。



のこぎりの使い方の学習の様子 (平田小)

さらに、1・2年生の木工教室では、スギやヒノキが家を建てる時の主な材料として使われていることや板の素材の香りや肌触りの良さを感じてもらいつつ、作る際の注意点を説明した後、クリスマスも近いことから、色々な形に切り抜いた材料とリースに見立てたスギ板の円盤に自由に着色し、これに、学校行事の「秋みつけ」で拾った木の実などの自然素材とビースなど人工の材料などを組み合わせたり、貼り合わせたりして装飾し、思い思いの作品を完成させました。

入野小学校からも、「卓上糸鋸盤の使い方、釘の打ち方、グルーガンの使い方などを指導してもらいたい。」との要望があり、これに沿って指導を行いました。

この際5年生は「防災学習をしているので、切った木や板、浜で拾ってきた流木などを組み合わせて看板をデザインしたい。」とのことで、防災学習ドアップレートを作りました。また、4年生は、「小学校の教科書に載っている木を組み合わせて、「ひみつのすみかをつくろう、いろいろな木で立体的にし

ていきたい。」との要望に沿って木工工作を行いました。
 中村小学校の2年生の木工教室においても、平田小学校1・2年生を対象とした内容と同様の指導、工作を行いました。



防災学習ドアプレート作りの様子（入野小）

〇おわりに

後日、各学校より教職員アンケートや児童の感想文の送付がありました。教職員アンケートでは、「実物の見本があったり、冊子に詳しく作り方が書かれていたりして自分が見たい物のイメージが湧きやすかったこと」「一緒に職員が手伝ってくれたことで、夢中で楽し

んで木工工作や木工クラフト作りができたこと」「たくさんの材料や道具があり、卓上糸鋸盤やのこぎりなど道具の使い方の学習ができて良かった」などと書かれていました。
 当センターでは、学校等の要請も踏まえつつ、教科書ともリンクした形で実践できる森林環境教育を推進していきます。



四万十川森林ふれあい推進センターにおけるR6.12の森林環境教育

実施日	学校	対象	実施内容 森林教室	実施内容 木工教室
12月6日	宿毛市立平田小学校	5・6年生計22名		木工工作 ハッピーブックスタンド作り
12月9日	黒潮町立入野小学校	5年生23名	座学 「森のやさしさ」のお話	木工工作 防災学習ドアプレート作り
12月9日	〃	4年生28名	座学 紙芝居 山（森林）からの贈り物	木工工作 ひみつのすみか作り
12月13日	宿毛市立平田小学校	3・4年生計20名		楽しく作ろうね 木工クラフト作り
12月16日	四万十市立中村小学校	2年生1組・2組計52名	座学 紙芝居 山（森林）からの贈り物	クリスマスリース作り
12月17日	宿毛市立平田小学校	1・2年生計16名	座学 紙芝居 山（森林）からの贈り物	クリスマスリース作り



鳥獣害被害対策を より効率的におこなうためには？

森林総合研究所四国支所森林生態系変動研究グループ 米田令仁

二ホンジカの生息頭数の増加にともなう植栽木の食害が顕著になってきていることから、様々な方法で植栽苗を被食から守る工夫がおこなわれてきました。近年になってノウサギによる被害も増加していることから防鹿柵ではなく単木保護資材が使用されている造林地を多く見ます。

「単木保護」とは名前の通り、木を1本1本守る方法です。植栽苗を鳥獣から守ることは昔からおこなわれている対処法であり、明治時代に書かれた「吉野林業全書」においてもシカからの食害を防ぐために雑木の枝葉で植栽苗を覆うとされ、1本1本守られていたことがわかります。植栽苗を直接何かで覆うことで被食を防ぐ方法は日本のみならず世界中でも昔からおこなわれていました。研究論文としては1970年代から盛んに発表され、どの素材を使い、どのような大きさの保護資材が適しているかという研究がおこなわれてきました。これまでに多く使用されているポリプロピレン製の単木保護資材について、現場では「中で蒸れて苗が枯れたのではないか」という意見を受けることがあります。保護資材内の微気象を測定したところ、通常の植栽地では問題がないものの、降雨量が少ない場所や、土壌水分の保持があまりできず乾燥しやすい場所では、中の気温と飽

差が高くなり植栽苗にかなりのストレスがかかる可能性があると考えられました(米田ら2021、Yonedaら2022)。

単木保護資材を用いたことで植栽苗が枯れる、もしくは成長が悪くなる場合、逆に単木保護資材を用いた場所で通常の植栽よりも樹高成長がいい場合も同様に植栽樹種、植栽環境を記録し、どのような樹種、環境、施業で単木保護資材が適しているのか、適していないのか把握することが大事です。また、単木保護資材にはネットを使用したものもあります。樹種によつては中で枝葉がネットに絡まってしまふものもあります。また、支柱の数が少ないものについては強風が吹きやすい場所や、支柱が十分に入らない場所、土壌が柔らかい場所、崩れやすい場所では保護資材が倒れてしまうケースも見受けられます(写真1)。単木保護資材を用いる場合は植栽する樹種、環境で効果は異なります。鳥獣害対策をする場合に防鹿柵なのか、単木保護資材なのか、単木保護資材の場合は植栽樹種と植栽環境からどの資材が適しているのかを見極めることが大切と考えます。



シカの生息密度が高い地域の単木保護資材を用いた植栽地。中の植栽苗を食べようとして保護資材が破損されています。シカの生息密度も単木保護にするかどうかの指標になります。



支柱が1本の単木保護資材を用いた植栽地。所々に斜めになったものがあります。

香川森林管理事務所の重点施策

香川森林管理事務所長 名本 亮介

香川県の森林面積は約9万haと全国45番目の小ささです。また、広葉樹林が6割を占め、残り4割の人工林の多くは昭和40年代のマツ枯れ被害跡地に植えられたヒノキ林で、全国平均に比べて15年ほど若齢であることや、瀬戸内海式気候特有の降雨量の少なさから木の成長が遅いことが特徴です。こうしたことから、人工林資源量が他地域と比べ小さく、これまで林業が盛んとは言い難い地域でした。一方で、近年では年輪が密でほかに赤味を帯びた県産ヒノキの価値を見直す機運が盛り上がっており、県産ヒノキのブランド化や新たな木材加工施設の整備の取組が、香川県及び林業・木材産業関係者により進められています。

国有林に限っては、面積はわずかに8千ha、県内森林の1割にも満たないボリュームしかありませんが、その多くが貴重な自主水源を潤す水源林となっているほか、屋島や飯野山をはじめとする都市部に近い里山も含まれており、地域の皆様の生活や生命を守る公益的機能の発揮が求められています。

こうした地域の状況を踏まえ、当所では特に次の3つの取組を進めています。

◆地域の安心・安全を守る山地防災力の強化

香川県は降雨量が少ないため自然災害

も比較的少ない地域ですが、山地は花崗岩や堆積岩など風化しやすい地質で急傾斜地も多く、また、災害発生リスクのある山地と人家や田畑との距離が近いことから、ひとたび豪雨に見舞われると溪流が一気に増水し土砂災害による被害が大きくなりがちです。そのため、県などの関係機関とも連携・調整しつつ、計画的に斜面の崩壊や溪流からの土砂流出を防ぐ治山事業を実施しています。

◆国産材の安定供給

先述のとおり、県内では木材利用拡大に向けた県の施策が展開されていますが、当所もこうした地域のニーズに 대응するとともに2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するため、間伐や主伐・再造林を計画的に進めています。林地保全や生物多様性にも配慮しつつ、伐採跡地の再造林にはこれまでの苗木と比較して花粉飛散量が半分程度と少なく成長の早い苗木を積極的に取り入れています。

◆林業担い手の確保・育成への支援

木材の安定供給を実現するためには、林業担い手の確保、定着とその技術力の向上が必要です。香川県では令和6年度から香川県立農業大学校内に林業を学べるコースを設けたほか、県、県内各市町及び香川県森林組合連合会が参画するかわ森林整備担い手対策協議会による既

就業者の技術向上に取り組んでおり、当所でもこれらの担い手確保・育成の取組に対し、カリキュラム作成への支援、講師派遣やフィールド提供の協力を行っています。また、林業担い手の定着に向けて、安定的に事業量を確保し、年間を通じた仕事量の確保に資するような事業発注に取り組んでいます。

当所では、引き続き県や関係機関などと連携してこれらの取組を推進していく考えです。





四万十森林管理署は、高知県西南部の11市町村にまたがる約5万2千haの国有林を管轄しており、管内を北から南へと蛇行して流れる「日本最後の清流」で知られる四万十川の源流点がある不入山。上層木が文化8年（1811年）下層木が昭和9年（1934年）に植栽された「日本最古の複層林」に認定されている糺ヶ瀬山。また、入野海岸周辺住宅を防風等から守る防風・潮害防備保安林として機能している他、日本の名松100選、美しい日本の道500選、に選ばれている「名勝入野松原」など、脊梁奥地から海岸に至るまで多種多様な風景を楽しめる森林を有しています。

今回は、四国最南端の足摺岬（土佐清水市）の西に位置する国有林、「白礫山」をご紹介します。

白礫山は通称白礫と呼ばれ、足摺宇和海国立公園に属している太平洋沿岸に面した、標高約124m、面積約95ha、クロマツやウバメガシ等が群生する、保健保安林機能を有した森林となっています。白礫山は海岸に突起した岬となっており、黒潮が日本で一番最初に接岸する岬」と言われ、花崗岩の断崖、岩礁を巻き込みながら流れる壮大な黒潮の影響により、魚の種類も豊富で「磯釣りのメッカ」としても全国的にも知られており、2003年9月公開の映画「釣りバカ日誌14、お遍路大パニック」のロケ地にもなっています。また、270度の壮大な風景が望める「太平監視台」、弁財天を祀る「龍宮神社」など見どころ豊富な景勝地でもあります。

「太平監視台」は、第二次世界大戦中、旧日本軍（海軍か陸軍かは不明）により、太平洋沖を航海する船舶を監視するため設置されたものです。現在は監視台の土台部分のみが残っていますが、その景観は今も絶景であり、船舶の監視を行うには絶好の場所だったことが観えます。



太平監視台より足摺岬を望む

「龍宮神社」は、白礫山の海に突き出た岩場に、豊漁と航海安全に恵まれるよう祀られています（国有林外）。国有林内の石鳥居をくぐり約400mの参道を進むと、朱塗りの鳥居と小さな祠が海に面して建てられているのですが、ここでは眼前に広がる海そのもののご神体であり、パワースポットです。

また、白礫山周辺には足摺岬や唐人駄馬巨石群等数多くの観光・パワースポットがあり四季を通じて様々な景色をお楽しみいただけますので、ぜひお越しください。



龍宮神社へ続く参道



朱塗りの鳥居と小さな祠



花崗岩の断崖、岩礁を巻き込みながら流れる壮大な黒潮